

聖霊降臨節第五主日礼拝

《主日朝礼拝式次第》

【入祭の部】

前 奏（黙祷）
「トッカータ 主のみ言葉についての黙想」
（讃美歌 21 の 57 番）
蒔田尚晃作曲

あいさつ
讃 美 讃美歌 21/351 番
開会の祈り
交 読 詩 篇 詩編 119 篇（へー）

【第一部 み言葉の礼拝】

聖 書
✚使徒言行録 9 章 3～9、15～19 節
✚ルカによる福音書 10 章 1～9 節
（新 P.229、新 P.125）
応 答 唱 讃美歌 21/46 番
教 話 井上隆晶牧師
『サウロの回心』

使 徒 信 条

【第二部 聖餐礼拝】

奉 献 讃美歌 21/81 番
教会の祈り（連祷）
平和の挨拶
讃 栄 讃美歌 21/83 番
主のいのり
陪 餐

【応答と派遣と祝福】

讃 美 讃美歌 21/512 番
感謝の献物
栄光の讃美 讃美歌 21/24 番
祝福の祈り 井上隆晶牧師
後 奏（黙祷）
「見よ、世はすべて」
（讃美歌 21 の 559 番） G.W.カスラー作曲

【本日の礼拝奉仕者】

司式補佐 屋宮英男
奏 楽 飯田雅子
献金当番 澤田真弓
受付当番 山千代誠子

【本日の予定】

◇教会学校（朝 9 時 30 分）
・お話し：井上隆晶牧師
◇讃美歌練習（礼拝後）
◇合同祈祷会（礼拝後）
◇定例役員会（午後 1 時）

【今週の教会での集会のご案内】

◇朝の祈り
・7 月 8 日（火）午前 9 時
・7 月 11 日（金）午前 9 時
◇英会話グループ
・7 月 10 日（木）午後 7 時 30 分

【次週主日 7 月 13 日のご案内】

◇教会学校礼拝（午前 9 時 30 分）
・お話し：小坪英恵
◇主日朝礼拝（午前 10 時 30 分）
・聖 書
✚出エジプト 3：1～10、13～14
✚ヨハネ 8：53～58
（旧 P.96、新 P.183）

・教 話
『わたしはある』

・讃美歌 21 358、46、355
・交読詩篇 詩編 119（ワウ）
・司式補佐 勝見 仁
・奏 楽 鹿野幸枝
・献金当番 相澤美子
・受付当番 小淵公子
◇讃美歌練習（礼拝後）
◇合同祈祷会（礼拝後）

聖 句

「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」

（使徒 9 章 15 節）

【諸報告・個人消息】

- ①《今週の井上牧師の予定》：7 日（月）午後 1 時 30 時「大宮保育園昼礼拝」、8 日（火）午後 1 時「シャロン千里施設連絡会」、10 日（木）「大阪市指導監査（大宮保育園）」、11 日（金）午後 5 時 30 分「シャロン千里デイサービス講話」
②《7 月の行事のお知らせ》
■7 月 6 日（日）午後 1 時「定例役員会」
■7 月 15 日（火）午前 10 時「心の病の勉強会」
■7 月 28 日（月）午後 1 時 30 分「シャロン千里礼拝」
③聖霊降臨祭感謝献金を献げましょう。献金目標は 18 万円です。皆さんのご協力をお願いします。
④ミャンマー地震災害募金のご協力をお願いします。8 月末まで募金は受け付けます。何度でも募金をして下さっても大丈夫です。
⑤【祈祷課題】
●新しい礼拝堂を建築するため。
●ウクライナとガザの戦争被災者のため。
●拘置所・刑務所にいる兄弟と家族のため。
●子どもたちの健康のため。
⑥【先週の集会統計】

日	集 会	男子	女子	大人	計	礼拝献金
29	CS 礼拝	0	1	7	8	¥2,555
	集 会	男	女	子ども	計	礼拝献金
29	朝の礼拝	8	13	3	24	¥27,100
1	朝の祈り	3	2	—	5	
4	朝の祈り	2	2	—	4	

- ⑦【6/29 の献金報告】
[月定] 屋宮英男（計 10,000 円）[ミャンマー募金] 相澤美子、飯田雅子（計 3,000 円）[各種感謝] 屋宮英男、山千代誠子、寺田安宏、阪口恵美子（計 18,000 円）[建築] 山千代誠子（計 1,000 円）
[互助] 屋宮英男（計 1,000 円）



【先週の説教要旨の続き】

▼ ③【神の国を伝えることは教会にしかできないこと】さて、フィリポの伝道について少し見てみましょう。「ここを立って南に向かいエルサレムからガザへ下る道へ行け。そこは寂しい道である。」（使徒 8：26）とあります。サマリアからエルサレムに帰ってきたフィリポを待っているかのように、天使はガザへ下る道へ行けと命じました。そこは昔から荒れ果てた人のいない寂しい道でした。こんな人のいないようなところへ出かけて行って一体何をしようというのでしょうか。しかしフィリポはすぐに従いました。するとフィリポはその道で、エルサレムで礼拝を終えてエチオピアに帰ろうとしていた宦官に出会いました。フィリポは彼に福音を伝えると彼はそれを信じ、洗礼を受けてキリスト教徒になりました。この彼によってエチオピアはキリスト教の国になったといわれています。エチオピア正教会です。神様には計画があります。フィリポによってエチオピアを救ったように、私たちを通して何かをさせ、誰かを救おうとされているのです。
榎本先生の教会は毎年、地域の人を招いて市民クリスマス会を開き、クリスマスページェントと礼拝をしたそうです。そのために大変な準備と労力と費用がかかりました。ある年に「今年は市民クリスマスをやめて、その費用で餅を買い、高齢者施設に配ったらどうか」という意見が出ました。しかし榎本先生は「餅を配ることは教会でなくてもできる。しかしイエス・キリストを宣べ伝えることは教会にしかできない。」と言って、クリスマス会を続けたそうです。キリストを伝えることは教会に託された聖なる務め、使命です。使命を失うとき、教会は命を失います。聖霊によって力を得、神の言葉に従って主イエス・キリストを伝える道を歩き続けましょう。